

福祉サービス第三者評価結果報告書（平成 29 年度）

平成 30 年 3 月 30 日

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
京都市大枝児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F

評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団

（東京都福祉サービス評価第三者評価機関／機構 12-215）

電話番号 03-3486-5141

代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201051
	②	豊倉 厚	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1401038
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	京都市大枝児童館		
施設連絡先	所在地	〒610-1105 京都府京都市西京区大枝塚原町 4-63	
	電話番号	075-332-5824	
施設代表者氏名	館長 齊藤 敦彦		
契約日	平成 29 年 3 月 31 日		
自己評価票回答期間	平成 29 年 10 月 27 日～平成 29 年 11 月 24 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	平成 29 年 11 月 10 日～平成 29 年 11 月 24 日		職員回答項目
訪問調査日	平成 29 年 12 月 15 日		

京都市大枝児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1 事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している		
1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している		○
2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている		○
2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している		○
【講評】 法人として基本理念と児童館の重点目標を掲げ、その実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人の基本理念は「京都市における社協行動指針 2015」に明記しています。指針には児童館事業の「重点取組」を記載し、法人のホームページ、リーフレット、チラシ、児童館の利用案内への記載などの方法で公表しています。利用者にも法人が目指す「基本目標」「重点目標」について理解が深まるようにしています。児童館ではその「重点取組」を基本として事業計画を作成しています。		
② 業務権限や責任所在に関する規程を定めています。また、全職員対象の研修を開催し、法人幹部が講師となり児童館の現状課題や方向性、法人の理念を伝え理解を深める機会としています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制により、運営主体の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換を円滑に図っています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3. 利用者や地域住民を対象としてボランティア育成をおこなっている		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 地域の関係機関のネットワーク（連絡会など）に参画している		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
3. 小学校等利用者が関係する機関との連携を図っている		○
【講評】 利用者や地域の関係者に情報開示を行い、透明性の高い児童館の運営を心がけています		
① 職員心得やサービス姿勢を「社協信条」に明示しています。「倫理」について研修を行うほか、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。そして、「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、法人所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。		
② 会計監査人の設置、管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。		
③ 京都市地域子育て支援ステーション事業の「基幹ステーション」として、子育てに関わる関係機関・団体のネットワークの基点となっています。各児童館では、「ステーションネットワーク」の広報物の発行や独自の取り組みが行われています。		
④ 「ボランティアの手引き」を独自に作成し、ボランティア担当を決めてその受け入れを進めています。		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

【講評】

利用者の意見・要望を受けとめ、児童館活動としての利用者サービスの向上に努めています

- ① 「苦情解決のための実務マニュアル」「苦情解決規則」を整備しています。法人に第三者委員会を置くとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意向を酌むことに努めています。
- ② 「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。また、アンケート結果を児童館に掲示・掲載することで利用者や地域住民へ公表し、透明性の確保とサービス内容の向上を図っています。
- ③ 学童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して、個別的な要望や意向を把握しています。児童館と家庭の共通認識が図られるように配慮しています。

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している		○
2. 年度単位の計画を策定している		○
3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる		○
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている		○
2. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している		○
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している		○
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している		○
2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している		○
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○
3. 利用者の負傷等に対応する傷害保険に加入している		○
4. 賠償すべき事故に対応する損害賠償保険に加入している		○
【講評】 法人の理念に基づいて事業計画を策定し、計画的な運営を行っています ① 「社協行動指針 2015」を基準に、児童館活動の基本的な方向性として事業計画を策定しています。地域福祉やコミュニティづくりを意識した児童館運営を行っています。 ② 職員行動評価の基準を作り、業績目標の設定と達成度について個別の評価を行っています。 ③ 法人独自に「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備し、避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、市からの指示により各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成しています。 ④ 活動中の利用者の負傷や、児童館が賠償すべき事案が起きた際等の不測の事態への備えとして、各児童館とも傷害保険・損害賠償保険に加入しています。		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
【講評】 人事考課制度や職員ヒアリングを導入して、人材育成と組織力の向上を図っています		
① 採用に関する明確な基準を持っており、透明性確保のために公募による採用を行い、適材適所の人員配置に努めています。 ② 法人独自の人事考課制度により、望ましい職員像や行動基準を明らかにしています。 ③ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ④ 職員一人ひとりの研修受講状況を管理し資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供		
1	利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している	
1.	利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
2.	利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○
3.	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
4.	放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	非該当
5.	事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている	○
【講評】 「じどうかんだより」は自治会連合会の協力で回覧板で周知されています ① 広報紙となる「じどうかんだより」は、学区の小学校に家庭数分を配布し全生徒に周知しているほか、自治会連合会の協力で地域に回覧板で周知される仕組みができています。 ② 子ども向けの紙面の漢字にはルビをふって情報をわかりやすく伝える努力をしています。また、「じどうかんだより」とは別に、来館した児童や乳幼児親子が、その日の活動予定が一目でわかるよう「月のよてい」が、館内に掲示されています。 ③ 乳幼児親子向け月のお知らせ「たけっこだより」と「すくすくだより」は、館内にも掲示しているほか、洛西エリアにある乳幼児親子が利用する6～7館の他施設にも行政の協力で配付されています。 ※京都市役所の方針で放課後児童クラブは希望者全てを受け入れるため、項目4は非該当とします。		
2 サービスの実施		
1	遊びの環境整備を行っている	
1.	遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている	○
2.	乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	—
3.	利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	○
4.	幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	○
【講評】 屋外遊びができる環境を活かした遊びや活動を展開しています ① 限られた施設規模のため高学年や中高生の利用は少ないが、周囲の環境も含めて豊かな自然に恵まれ、季節の野菜栽培の取り組みや、専用のコートでドッジボール楽しめる等、屋外のスペースを有効に活用しています。 ② 館内の遊びのルールについては、日頃の育成支援を通して子どもたちは理解しています。また、遊具の収納は子どもが理解できるよう整理されており、掲示された収納イラスト図を見ながら出し入れや片付けを行っています。 ③ 子どもの遊びの発想や工夫を大切にしたいという考え方から、遊具等も必要以上に置かず、子どもの遊びが豊かになるよう見守る視点と安全配慮の視点を大切に遊びの環境を整えています。		
2	乳幼児と保護者への対応を行っている	
1.	乳幼児と保護者が日常的に利用している	○
2.	乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	○
3.	保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	○

	<p>【講評】 フレンドリーな雰囲気を大切にした乳幼児親子事業を実施しています</p> <p>① 2歳以上の親子を対象とした登録制のたけっこクラブと、0歳以上の親子を対象とした広場形式のすずくひろばの2つの事業をフレンドリーな雰囲気を大切にして実施しており、参加する親子も少しずつ増える傾向にあります。</p> <p>② 大枝学区の社会福祉協議会の協力によって定期的に子育てサロンを実施しているほか、講師を招いて骨盤調整ヨガ、赤ちゃんの抱き方教室、ベビーマッサージ等も実施して子育て中の保護者から喜ばれています。</p> <p>③ 乳幼児が参加する事業を通して保護者同士が自然に交流する場となっています。また、たけっこでクラブでは、受付、出席の名前確認、出席カードの返却については保護者が当番制で役割を担っています。</p>								
3	<p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table> <tr> <td>1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 主な行事については、子どもが主体的に関われる実行委員会形式で運営しています</p> <p>① 近隣に公園がないことや隣接する小学校の校庭が使えないことから、屋外のスペースを活用して遊びたい児童の来館が定着しています。一般来館児童も学童クラブ登録児童同様に、必要な情報を小学校から入手して支援につなげています。</p> <p>② 子どもまつり、ハロウィン、クリスマス会、節分等の行事については、子どもの主体性を尊重した実行委員会形式で実施しています。特に、子どもまつりでは、一つのブースを子ども実行委員に企画、準備、運営を任せて取り組めるよう支援しています。</p> <p>③ 「育成とは何か」を常に意識して子どもへの対応を行なっています。特に一人ひとりの子どもの成長を職員間で共有して、より良い支援のあり方について館として考えながら対応しています。</p>	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○	2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○
1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○								
2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○								
3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○								
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○								
4	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table> <tr> <td>1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 中高生の継続的な利用や活動については今後の課題として捉えています</p> <p>① 中学生の利用数は年間を通して多くはありませんが、4月、5月は6年生からの利用の流れで、卓球やドッジボールを目的とした中学生が来館しています。また近隣中学校と連携してチャレンジ体験を受け入れています。</p> <p>② 中高生の継続的な活動実績や居場所となるような組織的な取り組みができているとは言えないため、職員も含めて館としての課題として捉えています。</p>	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	○	2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○				
1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	○								
2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○								
5	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table> <tr> <td>1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 「子どもが主人公」であるという文化を定着させたいと考えています</p> <p>① 集会的な場面では、常に子どもの声に耳を傾けるよう心がけています。特に学童クラブの帰りの会では、職員からの話は最小限にして、子どもの意見や思いを受けとめる場となるように意識的に取り組んでいます。</p> <p>② 子どもから友達関係のを中心とした個別の相談に丁寧に対応しています。相談の内容に応じて、落</p>	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○	2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○				
1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○								
2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○								

	<p>ち着いて話せるように場所を確保して、時間をかけて子どもの声に耳を傾けています。また、相談の内容については職員間で情報を共有して一人で抱え込まないよう心がけています。</p> <p>③ 子どもが主体的に活動する場であることを職員間で共有して、子どもの意見を反映した行事等の取り組みを進めています。また、大人の目線で子どもをルールに嵌めていく考え方ではなく、「子どもが主人公」という文化を定着させようとしています。</p>																	
6	<p>配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている</td><td>—</td></tr> <tr> <td>3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 保護者からの相談については、いつでも対応できる体制を整えています</p> <p>① 保護者からの軽易な相談については、職員全員がいつでも対応できる体制を整えています。相談内容によっては、教育現場のキャリアが長い館長自らが、保護者との面談形式で相談に対応しています。平成28年度は子育て家庭相談を20件受理し、うち5件は関係機関につなげています。</p> <p>② 障害のある児童に関わる支援については、仕組みとして定型化されたものではありませんが、総合支援学校の協力により、職員が研修会に参加したり、個別のケースについてのアドバイスを受けるなどの支援を受けています。</p> <p>③ 配慮を要すると思われる家庭が多いことを把握しています。特に、家庭の教育力が脆弱であると感じていて支援のあり方については、今後の課題としてアプローチしていきたいと考えています。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	—	3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○											
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○																	
2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	—																	
3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○																	
7	<p>地域の児童の育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 大枝こどもネットワーク会議を年3回開催して地域交流を図っています</p> <p>① 大枝学区自治連合会との協力関係を大切にしています。児童館としても日曜日の早朝に行われる地域の草刈りに協力しているほか、自治連合会主催の夏祭りにも児童館のブースを出店しています。</p> <p>② 児童館をより多くの地域の方に知っていただくために、隣接する大枝文化会館で、夏と冬に管弦楽コンサートを開催しています。児童館が旧大枝村役場跡地に地域住民の熱意により設立され経緯もあり、地域住民の交流にも役立っています。</p> <p>③ 学区社協、民協主任児童委員、学区自治連、小学校等の諸団体で構成する大枝こどもネットワーク会議を年3回開催して、地域子育て支援ステーション事業の推進や、子どもの課題について立場を越えて語り合い交流する場となっています。</p>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○											
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○																	
2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○																	
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○																	
3	<p>サービスの開始・終了時の対応【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】</p> <table border="1"> <tr> <td>1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</td><td></td></tr> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</td><td></td></tr> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている</td><td>○</td></tr> </table>	1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○	2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○	
1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている																		
1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○																	
2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○																	
3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○																	
2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている																		
1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○																	
2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○																	
3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○																	

<p>【講評】</p> <p>入会前の説明などを丁寧に行い保護者との信頼関係づくりに配慮しています</p> <p>① 入会申込書の受け取りの時点で、個別の保護者に対して学童クラブでの生活のことや、子どもが一人で留守番ができるようになることが必要であることも含めて説明し、質問や家庭の状況などのお話をうかがうようにしています。</p> <p>② 3月の入会説明会では「学童クラブのしおり」を使用し、クラブでの基本的な生活、1年間の流れ、保険について、緊急時の連絡などを説明して保護者の質問に答えるほか、年に3回保育懇談会、希望がある場合は個人懇談も行い、保護者との関係作りと不安や意向を受け止め、対応するように努めています。</p> <p>③ 学童クラブ登録児童の保護者を中心とした「児童館まつり実行委員会」を立ち上げてコーナーを担当してもらうことで、まつりを盛り上げてもらったり、他の行事でも保護者が応援してくれるなど、児童館、保護者、子どもが関わりあって運営がされるように心がけています。</p>

4 特に配慮を要する児童・家庭の個別状況に応じた計画策定・記録

1 定められた手順に従って情報収集、分析および課題設定を行い、子ども・家庭の課題を理解した個別の支援を計画している

1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している	—
2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている	—
3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている	○
4. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○
5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている	○
6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○

2 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	—
2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	—

3 配慮を要する子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○

【講評】

子どもの状況や保護者の意向は日誌やミーティングなどで情報共有しています

- ① 子どもの日々の様子や職員の対応ぶり、保護者とのやり取り等は学童クラブ日誌や職員各自のノートに記録され、月1～2回開催する職員会議で情報の共有を行っています。
- ② 小学校と子どもについての情報を共有するほか、保護者の同意を得たうえで幼稚園等の就学前に所属していた施設と連絡を取り、その当時の様子を聞き取ることで、子どもの特性を理解し対応に役立てることもあります。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○

4. 子どもの権利擁護のための規定が定められ、公表されている	○
<p>【講評】</p> <p>個人情報保護の徹底、子ども一人ひとりへの配慮など個の尊厳を大切にしています。</p> <p>① 学童クラブでは、個人情報に関わる内容を使用することがある旨を予め保護者に説明し、納得した上で同意書をいただくようにしています。また、突発的にその他に使用する必要が生じた場合は、その都度説明して同意を得ています。</p> <p>② 「子ども一人ひとりを尊重する」ために職員間で日常的に子どもへの対応について話すようにしています。職員会議では館長が先頭に立ってより具体的に話をします。子どもたちの話はどの子どもでも一人ひとりについて聞くように心がけています。職員の気付きによる提案も欲しいと考えています。</p> <p>③ 子どもの権利擁護については「京都はぐくみ憲章」を念頭に置いて児童館活動を行っています。また、法人では法人管理下児童館共通の倫理規程を策定しているところです。</p>	
6 事業所業務の標準化	
1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○
<p>【講評】</p> <p>法人共通のマニュアルを活用し、運営の標準化とサービス水準の確保に努めています。</p> <p>① 原則として「京都市児童館活動指針」に基づいた児童館活動を行っています。</p> <p>② 「個人情報保護マニュアル」「ボランティアの手引き」「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」など、法人独自のマニュアルが作成されており、原則として各児童館が同様の運用が図られるようになっていますが、館が設置されている地域の特性もあることから、その状況に応じて柔軟に対応することも認められています。</p> <p>③ 毎年小学生、中高生世代、保護者に対し利用者アンケートを実施して、地域の特色を活かした児童館運営を行い、サービス・活動内容の見直しを図っています。例えば乳幼児保護者からの要望から図書の貸し出しを開始しました。</p>	

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる	
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○
2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○
2 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	
1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○
2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	○
【講評】 個人情報等の重要な情報は、規程を整備して適切に保持・管理しています ① コンピュータにはアクセス権限をかけ、万全に情報管理しています。 ② 必要な情報は職員が共有する仕組みを整え、個人情報のデータはサーバーで整理・保管しています。 ③ 介助職員やボランティアについても子どもへの対応上必要な情報を共有しますが、併せて個人情報の重要性について説明して「守秘義務」を徹底しています。	

総評

■特に良い点

ポイント1	子どもの声を聴き、子どもの力を引き出す支援をめざしています
内容	集団活動の場面では、子どもが発言する機会を保障して、子どもの思いを受けとめていくことが大切であると認識しています。また、子どもを一つのルールに嵌めていく手法ではなく、一人ひとりの子どもの持っている力を引き出し、「子どもが主人公」となれるような育成支援をめざしていることが読み取れます。
ポイント2	地域資源と繋がりながら育成環境の醸成をすすめています
	大枝学区自治連合会との協力関係、隣接する大枝文化会館での夏と冬の管弦楽コンサートの開催、学区社協、民協主任児童委員、学区自治連、小学校等の諸団体で構成する大枝こどもネットワーク会議の開催など、地域の中に立場を越えて子どものことについて話し合い、活動する環境が醸成されています。これは児童館が地域に求められてできた経緯があることや、児童館から地域に積極的な働きかけによるところが大きいと思われます。この関係をさらに広めていかれることを期待します。
ポイント3	学童クラブでの生活が安定したものになるように保護者との関係づくりを丁寧に進めています
	入会申込書の受け取り時点で保護者から個別にお話をうかがったり、入会説明会、保育懇談会、希望性の個人懇談を丁寧に行ったりすることで、保護者との信頼関係を築き、子どもが安心して利用することに繋がっています。また、「児童館まつり実行委員会」に保護者に関わってもらいコーナーを担当してもらうことで、保護者同士や、地域の方々と交流する機会となるとともに、児童館に愛着を持つことに繋がっています。児童館や地域と保護者の良好な関係は、学童クラブでの子どもの安定した生活に繋がります。

■改善が望まれる点

ポイント1	中高生の継続的な利用につながる環境づくりが期待されます
内容	現状では、日常の中高生の利用者は少なく、継続的な利用や活動に結びついていないことを課題として捉えています。一方で、これまでも中高生映画会の取り組みや、中学生のチャレンジ体験の受け入れ、児童館まつり実行委員の実績に加え、数は少ないものの卓球やドッジボールを目的とした中学生の自由来館の利用実績も確認できることから、小学校高学年児童にとっての居場所づくりや、職員との関係を、切れ目なく継続できる環境づくりが期待されます。
ポイント2	子どもの支援に関する方針や記録を明示化し、支援に生かすことが望めます

	<p>子どもの特性や保護者の意向を踏まえた支援の方針や対応を明示する仕組みが確認できませんでした。日誌や各職員の記録に依るところが多い状況です。他機関との情報交換等の連携も図りつつ、子どもと家庭に寄り添って継続的に対応するには、子ども別にまとめた記録や支援方針が重要になります。今後、これらの仕組化を検討することも望まれます。</p>
--	---